



一般財団法人

THE LIFE PLANNING CENTER FOUNDATION

# ライフ・プランニング・センター

いのちを支える  
手であるために

教育医療・「新老人の会」

5  
2018  
Vol.3/No.5

## CONTENTS

財団からのお知らせ	
セミナー報告	
第25回ホスピス	
国際ワークショップ	2-3
「新老人の会」	
支部ニュース・トピックス	4-5
本部の活動から	6
俳句の会	7



松本 猛さん  
2017年夏、日野原先生の静修の場、安曇野の鳥居山荘でのお別れ会で



ちひろさんの絵と  
コラボレーションで



いわさきちひろ 海辺の小鳥 1972年

いわさきちひろ生誕百年にあたる今年、練馬区石神井と安曇野にあるちひろ美術館では、さまざまな企画展が開催されています。

〈安曇野ちひろ美術館〉  
長野県北安曇郡松川村西原3358-24  
〈ちひろ美術館・東京〉  
東京都練馬区下石神井4-7-2  
西武新宿線上井草駅 徒歩7分

東京館外観写真撮影 中川敦鈴



いわさきちひろさん  
1918年12月15日生まれ。青春時代に戦争を体験したちひろは、「世界中のこども みんなに平和としあわせを」ということばを残しています。ちひろが描いた子どもや花は、今もいのちの輝き、平和の大切さを語り続けています。

増築したアトリエにて 1963年夏

## 日野原先生と、母いわさきちひろ

美術評論家・ちひろ美術館常任顧問 松本 猛

日野原さんはちひろの描いた「海辺の小鳥」をみて、地球の鼓動を感じたのだろう。「海辺の時間」という詩を作った。

「……浜辺では波が寄せては引く

その波の動きは

おじいさんの残した

振り子のある古時計みたい

……浜辺に打ち寄せる波は

海の時計の秒の刻み」

日野原さんが安曇野ちひろ美術館を訪れたのは二〇〇八年、九十六歳の時だった。展示室でちひろの描いた子どもたちの絵を丹念に見て、写真や年譜もご覧になって、にこにこして私に話しかけてきた。ちひろさんはぼくより七歳下なんだね。若い時に出会っていたら、ぼくたちは大恋愛をしていたかもしれない、と。

いわさきちひろは「青春時代のあの若々しい希望を何もかも打ち砕いてしまう戦争体験があったことが、私の生き方を大きく方向づけているんだと思います」と語っている。ちひろの描く子どもは、戦争で失われた子どもたちの命を見てきたからこそ生まれた。日野原さんもちひろも東京の空襲を体験し、たくさんの命が奪われるのを目の当たりにしてい

る。日野原さんは美術館で子どもの絵を見ながら「命」を描き続けたちひろという人間を発見して共感したのではないだろうか。

日野原さんは、その後、ちひろの絵と『いのちのバトン』（ダイヤモンド社）という詩画集を作った。「海辺の時間」はそこに収録された詩だ。私は、日野原さんと親しくお話をさせていただく機会を何回か得て、二〇一〇年に対談集『アートを築きむ生き方』（新日本出版社）と一緒に出版させていただいた。音楽好きはよく知られていたが、実は美術にも造詣が深く驚かされた。ちひろの人生にも興味を持たれ、医療と芸術は相補わなければならないという話を熱心にされたことが印象的だった。さらに、一〇四歳になったときに九十四歳から十年間に書かれた詩とちひろの絵を合わせて、『しかえししないよ』（朝日新聞出版）を刊行された。あとがきの中で世界のあちこちでテロや戦争が続いていることを憂い、身近なものへのやさしい気持ち、命を尊ぶ気持ちが世界の平和につながっていくと語っている。今一人は、空のうえから地球の平和を願っているはずだ。二人の本は今も私たちにメッセージを送り続けている。